

「国際教育・交流調査2024（単位認定なし）」調査結果

一般社団法人日本私立大学連盟
国際連携委員会

I. 実施目的

国際連携委員会では、「国際教育・交流調査」の実施等を通じて加盟大学間の情報共有を図ることを目的として活動しています。

「国際教育・交流調査」の公式データにおいては、日本人学生の海外派遣留学は「単位認定あり」を基本としておりますが、併せて「単位認定なし」の派遣留学に係るデータを提供することにより、加盟大学に在籍する日本人学生の実際の海外留学の状況を把握し、海外派遣留学の全体像についての情報共有を図ることを目的として調査を実施しています。

II. 調査対象および調査方法

1. 調査対象：当連盟加盟大学（118大学※休会2大学を除く116大学で集計）
2. 調査方法：独立行政法人日本学生支援機構（以下、「JASSO」という）
「令和6年度留学生調査」結果の提供を受け、集計を行う。

III. 調査内容

日本人学生の海外派遣＜単位授与を伴わない＞（令和5年度実績）
（協定等制度に基づく留学、協定等制度なし、留学期間）

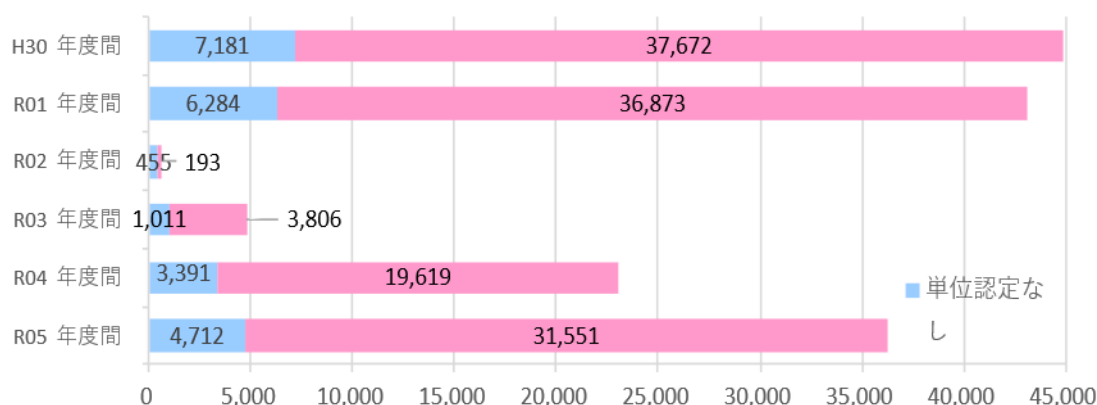
- 3.1.1 日本人学生海外派遣数＜大学別＞ 【学部＋大学院】
- 3.1.2 日本人学生海外派遣数＜大学別＞ 【学部】
- 3.1.3 日本人学生海外派遣数＜大学別＞ 【大学院】
- 3.2.1 国（地域）別日本人学生海外派遣数＜上位20カ国＞ 【学部＋大学院】
- 3.2.2 国（地域）別日本人学生海外派遣数＜上位20カ国＞ 【学部】
- 3.2.3 国（地域）別日本人学生海外派遣数＜上位20カ国＞ 【大学院】
- 3.3.1 国（地域）別日本人学生海外派遣数＜地域別＞ 【学部＋大学院】
- 3.3.2 国（地域）別日本人学生海外派遣数＜地域別＞ 【学部】
- 3.3.3 国（地域）別日本人学生海外派遣数＜地域別＞ 【大学院】

IV. 本調査における用語の定義

JASSO「令和6年度留学生調査」による。

V. 日本人学生海外派遣数の推移

令和5年度間の日本人学生海外派遣数は、単位認定あり・なしの合計で13,253人の増加となった。それぞれコロナ禍前水準まで順調な回復が見られる一方、円安ドル高に起因する留学費用の高騰などにより、特に欧米圏への派遣数の伸びは鈍化している。



VI. 調査結果 「国際教育・交流調査2024（単位認定なし）」

3. 日本人学生の海外派遣＜単位授与を伴わない＞（令和5年度実績：令和5年4月1日～令和6年3月31日）
 （1）日本人学生海外派遣数（単位認定なし）

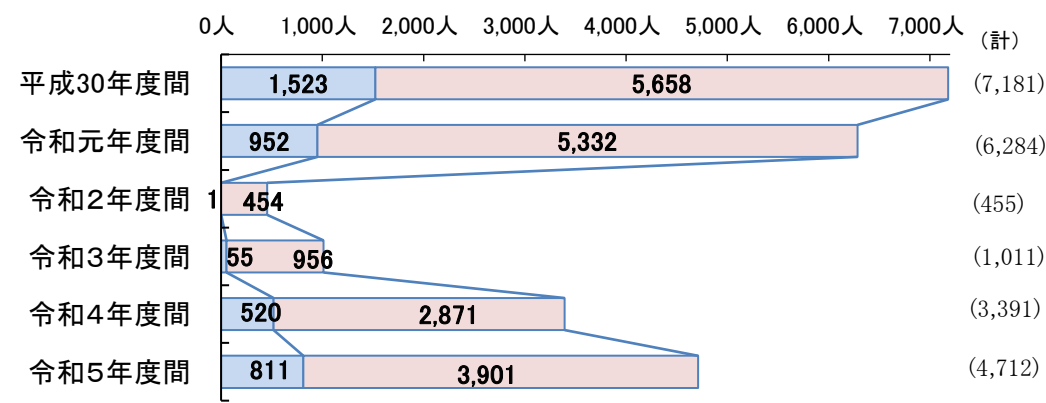
①総数
 日本人学生の海外派遣の総数は、令和4年度間の3,391人に対し、令和5年度間は4,712人と増加している。
 （1,321人・39.0%増）
 コロナ禍直前の令和元年度間の派遣人数と比較すると、75%の回復状況である。

②内訳
 協定等制度に基づく留学は、811人（291人増）、協定等制度なしは、3,901人（1,030人増）であった。

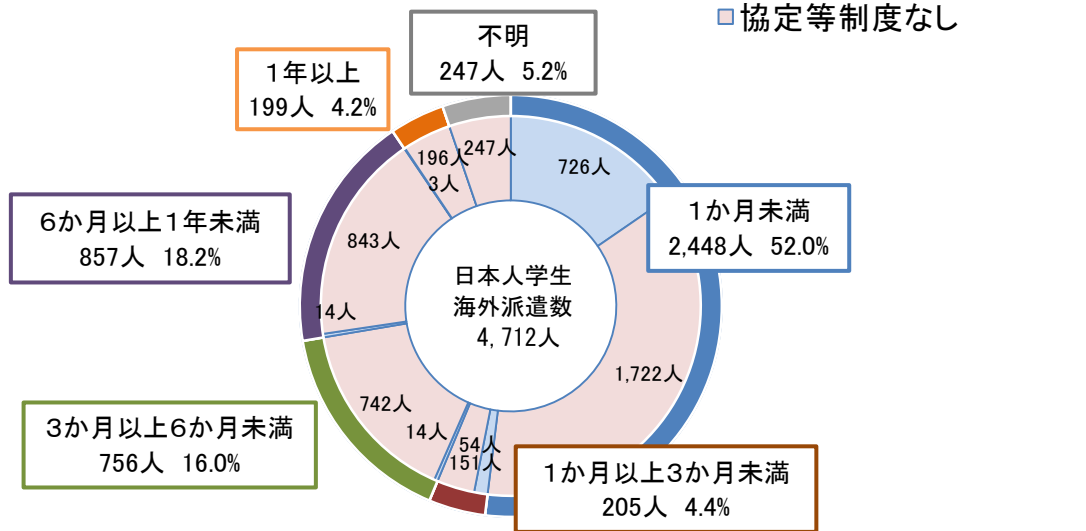
【表1】日本人学生海外派遣数の推移＜単位認定なし＞

区分	計	協定等制度に基づく留学							協定等制度なし						
		小計	1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上	不明	小計	1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上	不明
平成30年度間	7,181	1,523	1,301	41	82	96	3	0	5,658	2,688	548	669	1,298	191	264
令和元年度間	6,284	952	763	73	24	91	1	0	5,332	2,688	165	813	1,068	169	429
令和2年度間	455	1	0	0	0	1	0	0	454	0	15	155	191	34	59
令和3年度間	1,011	55	0	42	5	8	0	0	956	23	29	271	446	61	126
令和4年度間	3,391	520	378	72	26	43	1	0	2,871	935	101	418	865	166	386
令和5年度間	4,712	811	726	54	14	14	3	0	3,901	1,722	151	742	843	196	247
学部	4,207	751	690	42	3	14	2	0	3,456	1,345	140	721	817	188	245
大学院	505	60	36	12	11	0	1	0	445	377	11	21	26	8	2

【図1】日本人学生海外派遣数の推移＜単位認定なし＞



【図2】日本人学生海外派遣数の期間別割合＜単位認定なし＞



(2) 国(地域)別日本人学生海外派遣数(単位認定なし)

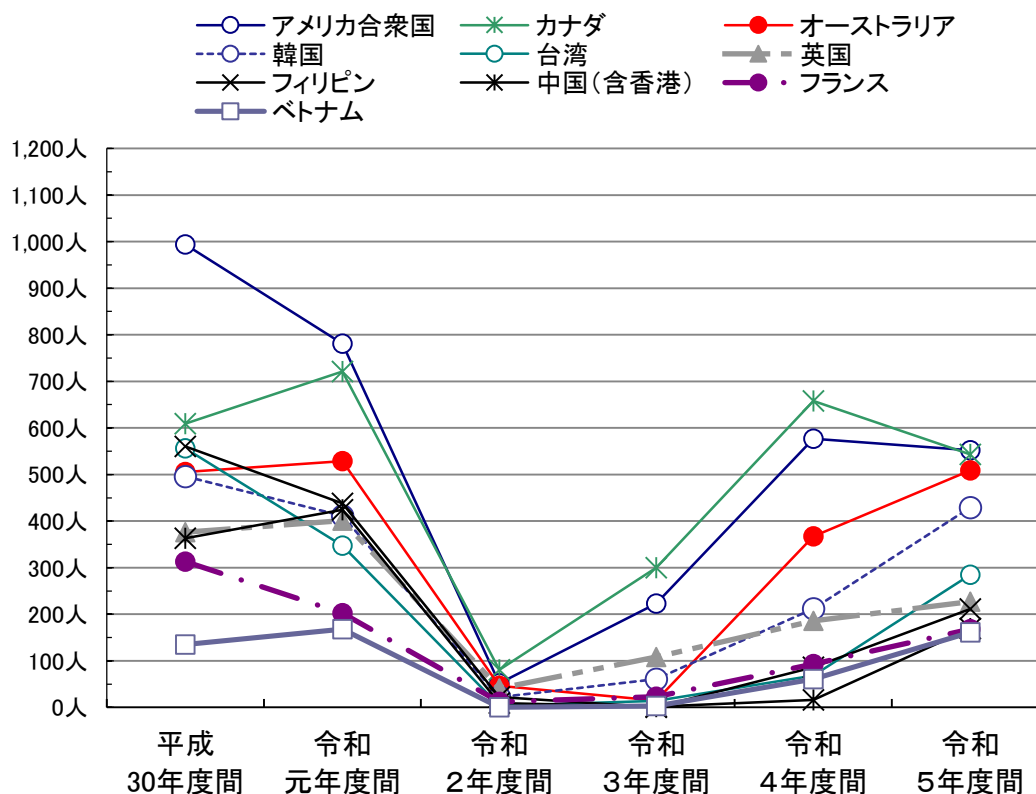
①国(地域)別の状況

令和5年度間の日本人学生海外派遣数をコロナ禍直前の令和元年度間と比較すると全体で75.0%の回復率である。国別でコロナ禍直前を大きく上回ったのが、オーストラリア(250%)、スペイン(138.6%)、スウェーデン(126.8%)である。人数が2ケタと少ないものの、こうした国々への留学生数の増加は、諸環境の変化の中であって、留学先の国の選択にも変化が生じていることを伺わせる。

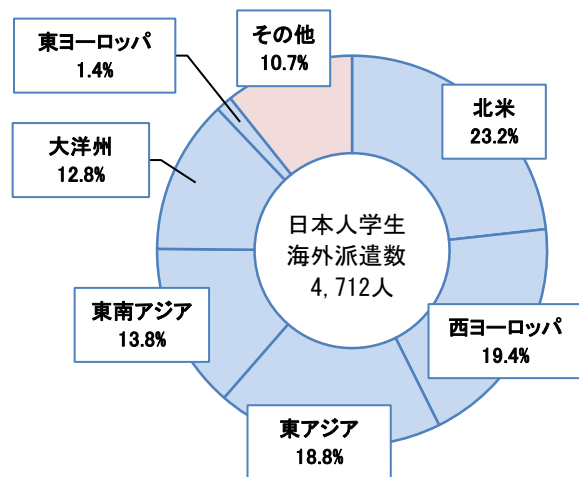
【図3】国(地域)別日本人学生海外派遣数と割合<単位認定なし>(上位20カ国)

国(地域)	日本人学生海外派遣数(人)	割合(%)	令和元=100
1 アメリカ合衆国	552	11.7	70.7
2 カナダ	543	11.5	75.3
3 オーストラリア	509	10.8	96.2
4 韓国	429	9.1	104.4
5 台湾	285	6.0	82.1
6 英国	227	4.8	56.6
7 フィリピン	211	4.5	48.2
8 中国(含香港)	169	3.6	39.9
9 フランス	168	3.6	83.2
10 ベトナム	161	3.4	95.8
11 タイ	89	1.9	52.0
11 ニュージーランド	89	1.9	84.8
13 ドイツ	87	1.8	64.9
14 スウェーデン	71	1.5	126.8
15 インドネシア	67	1.4	64.4
16 マルタ	66	1.4	83.5
17 スペイン	61	1.3	138.6
18 マレーシア	57	1.2	37.0
18 アイルランド	57	1.2	79.2
20 オーストラリア	55	1.2	250.0
上記以外の国	759	16.1	91.9
計	4,712	100.0	75.0

【図4】国(地域)別日本人学生海外派遣数の推移<単位認定なし>(上位10カ国)

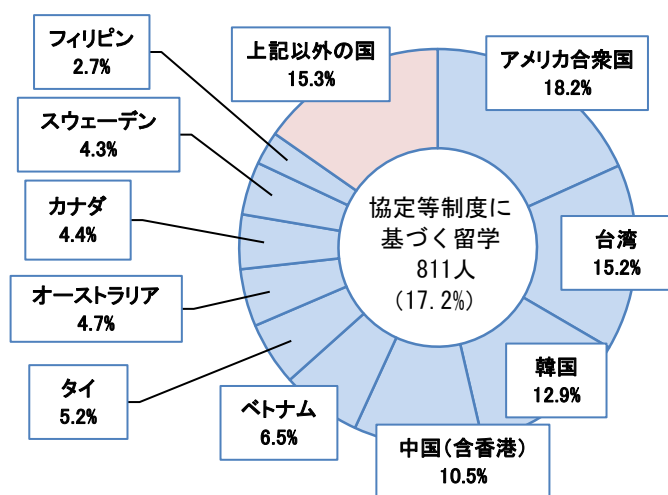


【図5】地域別日本人学生海外派遣数＜単位認定なし＞



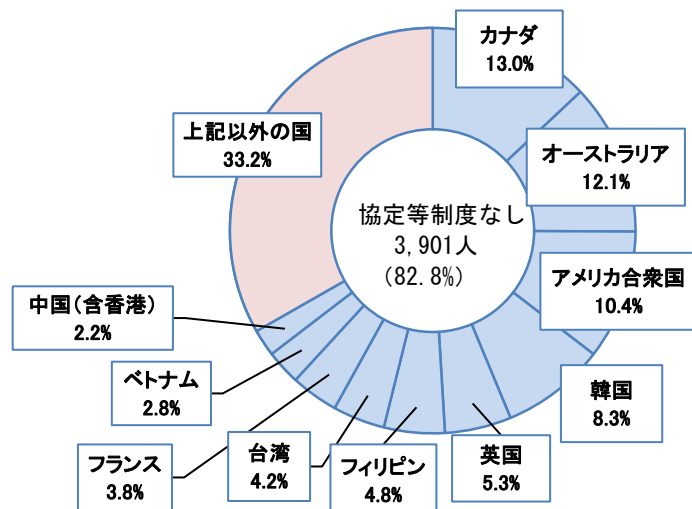
国(地域)	人数	割合	令和元=100
北米	1,095	23.2%	72.9
西ヨーロッパ	914	19.4%	74.4
東アジア	884	18.8%	73.9
東南アジア	648	13.8%	55.1
大洋州	602	12.8%	93.3
東ヨーロッパ	64	1.4%	68.1
アフリカ	23	0.5%	115.0
西アジア	19	0.4%	38.0
中近東	14	0.3%	66.7
中米	7	0.1%	41.2
南米	4	0.1%	66.7
不明	438	9.3%	133.9

【図6】協定等制度に基づく留学＜単位認定なし＞（上位10カ国）



国(地域)	人数	割合	令和元=100
アメリカ合衆国	148	18.2%	91.9
台湾	123	15.2%	151.9
韓国	105	12.9%	119.3
中国(含香港)	85	10.5%	86.7
ベトナム	53	6.5%	294.4
タイ	42	5.2%	280.0
オーストラリア	38	4.7%	73.1
カナダ	36	4.4%	43.9
スウェーデン	35	4.3%	-
フィリピン	22	2.7%	64.7
上記以外の国	124	15.3%	78.5

【図7】協定等制度なしの留学＜単位認定なし＞（上位10カ国）



国(地域)	人数	割合	令和元=100
カナダ	507	13.0%	79.3
オーストラリア	471	12.1%	98.7
アメリカ合衆国	404	10.4%	65.2
韓国	324	8.3%	100.3
英国	207	5.3%	70.9
フィリピン	189	4.8%	46.8
台湾	162	4.2%	60.9
フランス	148	3.8%	96.7
ベトナム	108	2.8%	72.0
中国(含香港)	84	2.2%	25.8
上記以外の国	1297	33.2%	77.4

【図5】：令和元年度を100とした指数でみると、前年度82.2⇒今回72.9の北米地域の減少が目立つ。その他の地域は南米と中近東地域を除いて前年比で軒並み増加（前年比1.3倍～6.3倍）している。北米以外の地域へのシフトが進んでいるように見える。

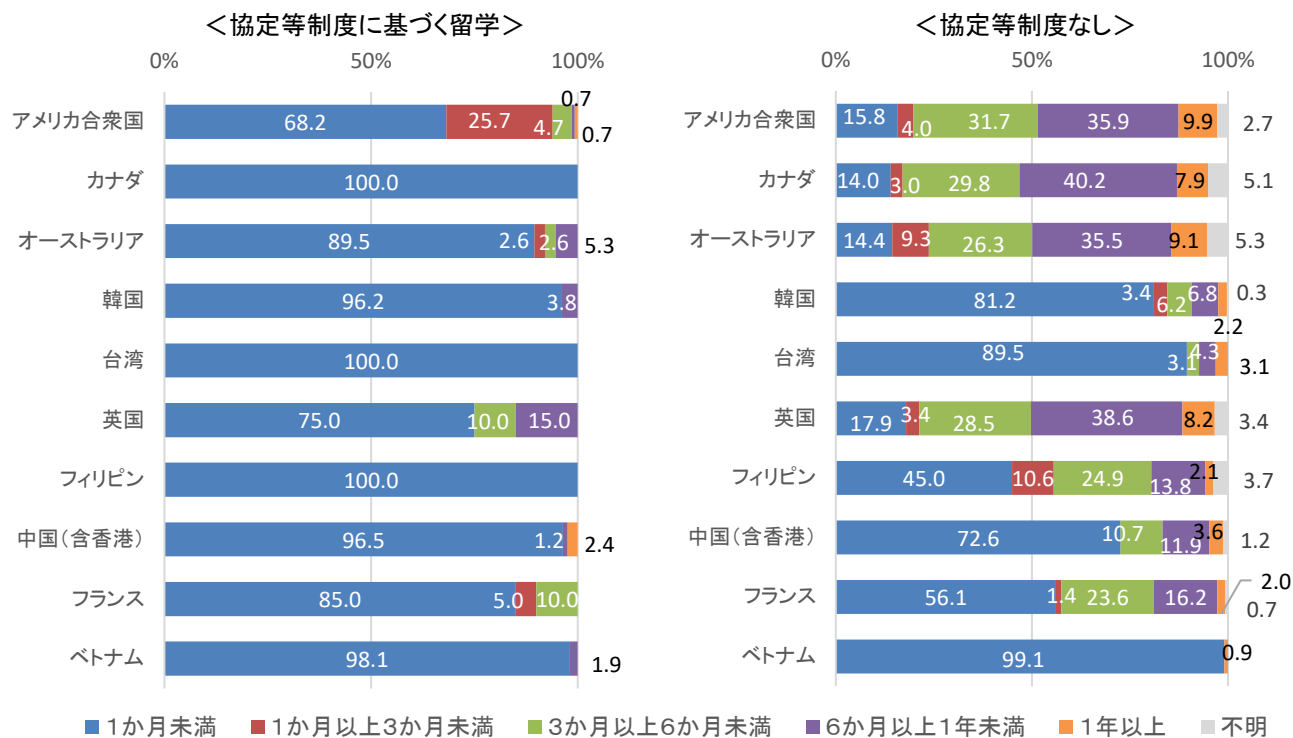
【図6】：同じく令和元年度を100とした指数でみると、ベトナム294.4、タイ280.0、台湾151.9、韓国119.3と高い。またアメリカ（前回43.5⇒今回91.9）、中国（前回0⇒86.7）と増えたものの、全体としては令和元年度（952人）を100とすると、まだ85.2（811人）である。

【図7】：アメリカ（前年81.8⇒今回65.2）、カナダ（前年92.2⇒今回79.3）の指数が低下している。一方、韓国（100.3）、オーストラリア（98.7）が令和元年度水準に戻っている。また、前年比で中国（含香港）5.2倍、台湾4.6倍、フィリピン2.7倍、ベトナム1.8倍、フランス2.3倍と、北米以外の地域への留学の回復が急速に進んでいる。物価高、円安ドル高などの影響であろうか、北米以外の地域への留学先の分散の傾向が見てとれる。

②留学期間

協定等制度に基づく留学では「1か月未満」の留学が圧倒的に多く全体の89.5%を占める。一方、協定等制度なし留学では、「1か月未満」が44.1%、それ以上が49.5%と、ほぼ半々となっている。また、英語圏であるアメリカ、カナダ、オーストラリア、英国の合計で計算すると、「1か月未満」が15.1%なのに対して、それ以上の期間が80.6%と高く、単位認定なしの場合のこれらの国への協定なし留学の特徴と言える。

【図8】国(地域)別日本人学生海外留学期間の割合<単位認定なし>(上位10ヵ国)



参考までに、上位20ヵ国について、詳しい集計結果を【表2】に掲載する。

【表2】国(地域)別日本人学生海外留学期間別派遣数<単位認定なし>(上位20ヵ国)

区分	計	協定等制度に基づく留学							協定等制度なし						
		小計	1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上	不明	小計	1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上	不明
令和5年度間	4,712	811	726	54	14	14	3	0	3,901	1,722	151	742	843	196	247
アメリカ合衆国	552	148	101	38	7	1	1	0	404	64	16	128	145	40	11
カナダ	543	36	36	0	0	0	0	0	507	71	15	151	204	40	26
オーストラリア	509	38	34	1	1	2	0	0	471	68	44	124	167	43	25
韓国	429	105	101	0	0	4	0	0	324	263	11	20	22	7	1
台湾	285	123	123	0	0	0	0	0	162	145	0	5	7	5	0
英国	227	20	15	0	2	3	0	0	207	37	7	59	80	17	7
フィリピン	211	22	22	0	0	0	0	0	189	85	20	47	26	4	7
中国(含香港)	169	85	82	0	0	1	2	0	84	61	0	9	10	3	1
フランス	168	20	17	1	2	0	0	0	148	83	2	35	24	3	1
ベトナム	161	53	52	0	0	1	0	0	108	107	0	0	0	1	0
タイ	89	42	36	6	0	0	0	0	47	42	0	1	4	0	0
ニュージーランド	89	17	17	0	0	0	0	0	72	25	5	11	19	6	6
ドイツ	87	19	13	5	1	0	0	0	68	34	9	11	11	3	0
スウェーデン	71	35	35	0	0	0	0	0	36	36	0	0	0	0	0
インドネシア	67	2	2	0	0	0	0	0	65	42	10	2	10	0	1
マルタ	66	4	4	0	0	0	0	0	62	30	2	17	10	2	1
スペイン	61	0	0	0	0	0	0	0	61	35	2	15	7	1	1
マレーシア	57	19	17	1	0	1	0	0	38	23	2	5	3	4	1
アイルランド	57	3	3	0	0	0	0	0	54	5	1	21	23	2	2
オーストリア	55	0	0	0	0	0	0	0	55	46	2	3	4	0	0
上記以外の国	759	20	16	2	1	1	0	0	739	420	3	78	67	15	156
先行国数	65ヵ国	28ヵ国	24ヵ国	8ヵ国	6ヵ国	8ヵ国	2ヵ国	0ヵ国	62ヵ国	42ヵ国	18ヵ国	39ヵ国	39ヵ国	26ヵ国	23ヵ国